

# 一般社団法人

## 千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 45 2014年7月27日

### 目次

総会報告	1	匠の技	8
会長から	2	地域リーダー会議報告	10
学術局から	3	各委員会・作業部会から	11
ひとくちコラム	5	事務局から	14
施設紹介	6	理事会・委員会等議事録	15
臨床こぼれ話	7	メルマガについて	22

## 第3回一般社団法人千葉県言語聴覚士会総会の報告

5月18日(日)、第3回一般社団法人千葉県言語聴覚士会定時総会が開催されました。会員の皆様のご協力により、議事を円滑に進めることができました。ご協力に感謝いたしますとともに、総会の概要をご報告いたします。

日時：平成26年5月18日(日曜日) 13時04分～13時45分

場所：千葉大学医学部附属病院 第1講堂

議長：勝又 綾子(緑が丘訪問看護ステーション)

副議長：斉藤 公人(千葉市療育センター)

書記：荒木 謙太郎(みつわ台総合病院) 宮阪 美穂(東京医薬専門学校)

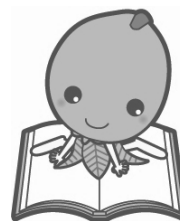
会員数及び出席者数：議決権のある会員総数342名

出席会員数186名(当日出席25名、議長委任161名)



### I. 協議事項

1. 第1号議事 平成25年度活動報告に関する件
2. 第2号議事 平成25年度決算報告に関する件
3. 第3号議事 平成25年度監査報告に関する件
4. 第4号議事 平成26年度活動計画案に関する件
5. 第5号議事 平成26年度予算に関する件



以上の件が提出され、全議事とも満場一致で可決されました。なお、平成26年度活動計画案については、吃音への取り組みや生涯学習講座開催方法に関する質疑応答がなされました。

### II 報告

- ・規則の改正に関する件

以上の件が報告され、新たに設けられた食事料に関する質疑応答がなされました。

(総務部 宮下 恵子)

## ◇ 会長から ◇

### \*\*\* 最近の変化について \*\*\*

会長 吉田 浩滋

一般社団法人へ移行してから2年がたちました。この間、さまざまな変化を感じております。例えば、いろいろな団体から声がかかるようになりました。委員会を作るので委員の推薦をお願いします、というものであったり、協議会への参加の要請であったりします。

なかでも、最も大きいものは第五次千葉県障害計画の策定委員への参加要請です。これについては理事會に諮り、会長に参加の意思があることを県に伝え、審査を受け、正式に委員となりました。ここには一般社団法人千葉県作業療法士会の池澤会長も委員として参加されており、意見を述べ合っております。

このなかで、私は三つの主張をしようと考えております。

①人口10万人当たりの医師・看護師の数は、千葉県は47都道府県中45位である。今後、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、医療職の量の確保が重大な課題となっている。併せて、障害の分野でも医療的ケアを要する方の在宅支援が重要になるので、計画のなかに医療職の人材確保の方策を記載する。

②同様に、言語聴覚士の確保に困難をきたしている現状があるので、言語聴覚士の養成校が無い関東での唯一の県であることを認識してもらい、養成校の確保について記載する。

③平成25年に成立した障害者総合支援法では地域生活支援事業のなかの、意思疎通支援の強化について、これまでの手話、要約筆記に加え、知的障害、失語症、高次脳機能障害、重度の身体障害等の支援の在り方として会話パートナー等の例を示す。

特に③の、手話や要約筆記の事業については、ここ数年、市町村事業においても「コミュニケーション支援や意思疎通支援」という言葉が使われるようになっていきます。これは手話や要約筆記以外の、意思疎通の方法や手法を支援の対象にしようとする意図があるのだと感じられます。今後、この「地域生活事業のなかの意思疎通支援」の流れを大きな流れに育て「会話パートナー」等を事業に加えて行くのは言語聴覚士の大きな役割になるでしょう。

また、②については、今年度、千葉県立保健医療大学より、「リハ職の需給動向調査」の共同研究の依頼があり、今後、会員の皆様には協力をお願いするようになると思います。一般社団法人に移行して2年、このような変化、動向は法人格効果といいますか、一般社団法人になってもたらされたものであらうと感じています。



## ◇ 学術局から ◇

学術局 木村 佐知子、酒井 譲

### 1. 平成26年度第2回研修会のお知らせ

第2回研修会は、医療・介護・福祉のどの分野においても早急な対応が求められている「認知症」をテーマといたしました。最新知見および適切な診断方法、その後のリハビリテーションまでを学べる機会となるよう、皆様のご参加をお待ちしております。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘い合わせの上、ご参加下さい。

\*日時：平成25年9月21日（日） 13:00～16:30

\*会場：東京女子医科大学八千代医療センター 外来棟4階大会議室

\*内容

#### I. 講演 [13:00～14:40]

「認知症の専門知識」～言語聴覚士が知っておくべき最新知見～

講師：医療法人相生会 認知症センター センター長

東邦大学医学部客員教授

医師 中野 正剛 先生

#### II. 評価実習 [15:00～16:30]

「＜実践＞認知症の評価」

講師：東邦大学医療センター佐倉病院

言語聴覚士 治田 寛之 先生

\* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

### 2. 第1回研修会報告

平成26年5月18日（日）に千葉大学医学部附属病院で第1回研修会を開催しました。今回は、袖ヶ浦さつき台病院総合広域リハケアセンターリハビリテーション専門医竹内正人先生をお招きしてご講演いただきました。参加者は103名（会員55名、会員外21名、学生27名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部をご紹介します。

#### 研修会の概要

演題：「ICFを用いた全体像の把握と予後予測～ケーススタディ～」

講師：袖ヶ浦さつき台病院総合広域リハケアセンター センター長

リハビリテーション専門医 竹内 正人 先生

概要：ICFを用いた全体像の把握と予後予測の方法についてご講演いただきました。初めに、全体像の把握・予後予測に必要なシステム思考、プロセス思考、心のリハと環境のリハについてご説明いただきました。システム思考のご説明では、ある問題に対し、誤った認識の結果から起こる不適切な行動、そこから得られるマイナスの結果といった悪循環の原因を明確化し、良循環へ転換していくための視点であることをご教授頂きました。その例として、地域生活における問題点が挙げられており、①高次脳機能障害が看過されたまま、退院することが多く、医学的説明が不足していること、②その後に退学、失職など多大な社会的不利益を被ること、③二次的症状として適応障害に至ることが多い事をご教示い

いただきました。

次にプロセス思考のご説明では I C F の[生活機能]を構成する[心身機能][活動][参加]の三要素において、未来の[参加]・[活動]を想定した上で、その[活動]に役立つ[心身機能]に対する個別的なプログラム立案が必要であることをご教示いただきました。心のリハと環境のリハについてのご説明では、問題を解決していくにはご本人やご家族、関係者を含めたチーム作りをしていく必要のあることをご教示いただきました。

また、＜社会生活（S F A）プログラム＞についてのご説明では、①生活の基盤を作る（健康管理、食生活など）、②自分の生活をつくる（金銭管理、住まいなど）、③自分らしく生きる（障害の理解、コミュニケーションと人間関係など）、④社会参加する（情報、外出など）、⑤自分の権利を活かす（障害者福祉制度など）といった項目の中で、③自分らしく生きる項目が特に重要で、自身の障害の理解、状況に合わせて感情と行動を制御する能力を身につけていく事が特に重要である事を学びました。

各項目の合間にケーススタディの時間が設けられ、参加者同士がグループに分かれてディスカッションを行いました。

I C F の項目についての知識はあるものの、予後予測や訓練プログラムの立案の際に I C F をどのように活用すればよいかわからないという方は少なくないと思います。今回、ケーススタディなどを通して、日々の臨床にすぐ活かすことのできる考え方をわかりやすくご教示頂いた貴重な時間となりました。

#### アンケート結果

##### ①研修会に参加して（回収：67名）

とても良かった：44名、普通：16名、期待していた内容と異なった：2名、未記入：5名

具体的に：

- ・講義形式のみでは無くグループディスカッション形式を交えた内容で、参加されている S T の先生方と話す機会が得られてよかった。
- ・習ってきた基本的な方法とは異なる切り口の I C F でのプログラム作成で勉強になった。
- ・その人らしさを活かせる関わりをしていきたい。

##### ②今後の研修会や当会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

（以下の項目つき、回答を集計しました。）

形式：講演 43名、症例発表 31名、シンポジウム 4名、グループワーク演習 16名、

相談会 9名、領域ごとの研修会：15名、その他 1名

内容：失語症 47名、高次脳機能障害 47名、摂食・嚥下障害 41名、

音声・構音障害 22名、吃音 7名、言語発達障害 7名、

聴覚障害 4名、認知症 23名、職場の悩み相談 4名、子育てとの両立について 3

名、復職について 10名、接遇やマナー等 1名、その他 4名

具体的に：

- ・急性期リハを中心としたもの
- ・発語失行と構音障害を合併した場合のアプローチについて
- ・PDD児等の保護者に対するアプローチ
- ・画像の見方
- ・がんのリハビリテーション

- ・新人研修や実習生の指導方法
- ・高次脳機能障害の方の社会復帰について、認知症の方とその家族に対してS Tができること

### 3. 学術局より

#### [研修会を終えて]

研修会後の懇親会では、新人から経験年数豊富な先生方まで多くの方にご参加いただき、講演や日々の臨床について等、活発な意見交換が行われました。また自己紹介やゲームなども催され、ふれあいのある会になりました。多くの皆様にご活用いただく機会となったことを嬉しく思っています。また形式を変えたアンケートでは、具体的に皆様からのご要望を抽出でき、今後の研修会の運営に活かして参ります。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますようお願いしております。

#### [研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などがありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。当会ホームページにお問い合わせください。

### 3. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。



## 三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

### 人工内耳の適応基準について

人工内耳の適応を簡単に言えば、補聴器の装用効果がほとんど認められない方、身体障害者手帳で考えると、聴覚障害の2～3級の方が相当します。人工内耳手術の適応基準の詳細は、1998年4月に日本耳鼻咽喉科学会から示されており、成人に対する適応基準では、90デシベル以上の高度難聴で、補聴器装用効果が乏しいものとされています。小児に対する適応基準は、2006年1月に見直しがなされ、小児では1才6か月以上で、聴力検査では90デシベル以上の高度難聴があり、少なくとも6か月間補聴器を試みても聴覚活用ができないという判断の上で手術の適応とされておりました。しかし今年になって(2014年)小児の人工内耳の適応基準が大きく見直され、①適応年齢が1歳6か月から1歳(体重8kg以上)へと変更、更に、②小児に対する補聴の基本は両耳聴であり、人工内耳の両耳装用が有用な場合はこれを否定しない、と記載されました。今回の見直しは、聴覚障害児に対する人工内耳が一定の効果を示してきていることを踏まえて、その適応年齢を上げた改定となりました。以前よりも早期に人工内耳を装用することができ、それにより早期に補聴が開始されます。今後も適応基準は医療の進歩により適宜見直されていくと思います。

皆様の周りでご相談などあれば、これを参考にしていただければと思います。詳細な基準は日本耳鼻咽喉科学会のHPに掲載されています。必要があればそちらを参照してください。

## 施設紹介

### 八千代市ことばと発達の相談室・・・・・・・・・・ST 村木 俊史

「八千代市ことばと発達の相談室」は、昭和51年11月に市役所の一角に「言語治療相談室」として開設し、今年38年目を迎えました。平成9年7月には保育園の跡地に移転し、同時に開設された地域子育て支援施設「すてっぷ21大和田」と同じ建物内で、業務を行なっています。組織上は、違う場所にある「八千代市児童発達支援センター」の相談部門に位置づけられているため、職員が行き来しながら業務を行なっています。市民にやや混乱を招く面もありますが、子育て支援施設と同じ場所にあることで、「相談する際、保護者の抵抗感が少ない」「健診に関わる保健師や保育士など関係職種とも情報交換がしやすい」等メリットもあります。

スタッフは言語聴覚士3名・心理士2名で、市内の就学前のお子さんを対象に、発達面の問題・構音・吃音・難聴等の相談にのっています。八千代市は18年前に東洋高速鉄道が開通したことで人口が増加し、それに伴って新規相談の件数も増加してきました。ここ2、3年、全体の乳幼児数は横ばいから下降傾向になりつつありますが、東京女子医科大学八千代医療センターが市内にあることや、発達障害が社会で認知されてきたことなどの影響もあるのか、相談件数は引き続き増加傾向にあります。そのため「個別の指導回数を増やしてほしい」「保育園への訪問回数を増やしてほしい」といった保護者からの要望に応じ切れていない面があり今後の課題です。

今年度からは、新人言語聴覚士も加わりました。市内での連携のみならず、他機関の言語聴覚士との情報交換も大切にしながら、対象児のコミュニケーションへのサポートが充実できるように努力していきたいと考えています。

### 八街市幼児ことばの相談室・・・・・・・・・・ST 牛口 和子

八街市幼児ことばの相談室は、昭和55年に当時の八街町老人福祉センターの一室からスタートしています。その後昭和57年から指導員1名で指導を行っています。（規則等定められたのは、昭和61年のことです。）平成8年4月に市保健福祉センターの4階に移り、ことばと発達に関する相談・指導を行っています。現在、職員はST1名です。

本相談室では、個別の相談・指導の他にグループ指導を行っています。これは相談内容が近年ことばだけでなく、行動の問題等、コミュニケーション全般への心配が増えていることもあり、始めたものです。また健診後の親子教室（あそびの教室）参加者のフォローの場ともなっています。市内のマザーズホームと連携しながら、市立の保育園、幼稚園の協力も得て行っているものです。グループ指導では、非常勤の心理職、保育士、幼稚園教諭と共に指導に当たっています。今後も他職種と協力しながらSTの専門性を活かし、利用者親子に寄り添いながら支援できればと思っています。

## 臨床こぼれ話



### 「友の会の参加者と支援者から頂いた二つの宝物」

首都医校 言語聴覚学科 松元 瑞枝



今までの臨床の中で、失語症友の会の結成に立ち会えたこと、そしてその友の会参加者の皆さんと長い年月を共に歩ませて頂いたことは、私にとってかけがえのない経験だったと思います。その友の会結成のキーマンとなる一人の患者さん(Aさんと呼ばさせていただきます)との出会いが大きかったと思います。Aさんの発症翌日からベッドサイドでの言語訓練が開始されましたが、声が全く出ない状態が数日間続きました。困った私は奥様の来られる時間帯にベッドサイドに伺うことにしました。そして奥様から、Aさんは音楽が大好きで、ウクレレを弾きハワイアンバンドに参加していたことをお聞きしました。そこでさっそく、奥様と一緒に炭坑節を歌ってみたところ、Aさんは初めて有声音を発声されました。以降出せる音を増やすアプローチや理解力訓練、カレンダーワーク等を行いました。

その後Aさんはリハビリテーション専門病院(今で言う回復期病棟)で、集中的訓練をした後自宅に退院され、外来で病院のグループ訓練に参加されるようになりました。1～2年経過して、グループ訓練のメンバーはそれぞれ横浜市内各区の言語訓練教室に参加できるようになったため、病院でのグループ訓練は終了することになりました。その時、患者さんご家族の方から、せっかく仲良くなった皆さんと別れたくないという意見が出ました。けれど、どうすれば皆が集まれるか、支援者は誰なのかという問題が出てきました。そこで、Aさん担当の保健師さんに相談したところ、Aさん担当のヘルパーさんがその地域のボランティア団体の会長をしているので、協力を呼びかけてくださるということになりました。その結果、当事者と家族が中心となって、言語聴覚士、保健師、地域のボランティア団体の三者が支援者となり、月に1回地区センターで集まろうということになりました。これが失語症友の会ができた経緯です。この会は平成9年に結成されて、現在も活動を継続しています。

この会を支援することを通じて、失語症当事者の皆さんの生きざまを学ばせていただきました。SLTA上ではほとんど得点がない混合型失語症のBさんは、いつも真っ先に来て、他の参加者が到着すると、「お～」と声を掛けてその方の座るべき机の方向を指し示します。その「お～」という声に導かれて、参加者達は笑顔で席に着かれます。この方の病前の趣味は、盆栽作りと書道で、盆栽の鉢の雑草は小さいうちにピンセットで取るという方だったそうです。そして、皆の勧めにより左手で書道に挑戦されていました。そのへこたれない精神力には、いつも敬意の念を抱かされました。Aさんは、ハーモニカを上手に吹いて皆の人気者です。そして、視床痛のあるCさんは、人の顔を見ると挨拶代わりに「いて～」とおっしゃっていた方でした。その方は、絵カードの模写から描画を始め、今では一日7～8時間かけて風景画を描いて、作品を友の会で披露します。描いている間は、痛みを忘れることができるそうです。

当事者の生きざまという宝物、そして支援するご家族や後輩ST、ボランティアの一生懸命な姿という宝物を頂きました。今私は頂いた宝物を、言語聴覚士を目指す学生たちに伝えたいと願って奮闘する日々を送っています。皆さんの臨床での宝物は何でしょうか？

# 匠の技

元特別支援学校 教員  
篠原 喜久子

## <原稿を書くに当たって>

私は非常勤で子育て全般についての相談業務をしている篠原喜久子です。特別支援教育の学校現場(かつての養護学校と小学校特殊学級)に30年余勤務し、退職してすでに4年が過ぎました。現職後半からサークルを運営したり、NPOの運営をお手伝いしたりして学校以外の場でも障がい児・者や保護者と関わる機会を持つことができました。そんな関わりの中で、「障がい児」と言われていても、私と同じように感じ、考え、様々な思いを持っているたくさん子ども達に出会いました。またそれと同時に、自分の気持ちを周りに伝えることができない、分かってもらえないことですごく苦しんでいることも知りました。今回原稿を依頼される前に、そのことを再確認させられる本を図書館で偶然手に取りました。その本を読んでいるうちに、私自身が出会った、言葉に出して表現できないもどかしさ、苦しさをいっぱい感じている子ども達の心の内やそれでも何とか伝えたいと頑張る姿をぜひ皆さんに伝えるべきだと思いました。1回目は学校現場で経験したことや感じた思いを書くことにしました。エピソードの羅列で自己満足なものになってしまうかもしれません

んことをご了承ください。

## <名古屋市の養護学校での出会い>

### 1. Oくん 中2

ダウン症のOくんは言葉が不明瞭で、話し好きだけれど何を言っているか理解できないことが多いお子さんでした。さらに片足を引きずって歩く程の身体面でのハンディもあったのですが、保護者は彼にいろいろな経験をさせたいと徒歩通学もさせていました。その彼は階段の踊り場に立って、そこを通る先生や友達を威嚇するように、よく大きな声でしゃべっていました。それはいかにも自分の強さを誇示しているといった様子でした。またある時は、突然教室内の机やイスを使って、外から入れないように一人でバリケードを作ったんです。原因は何だったのか、その後どう対応したのか、残念ながら思い出せません。しかし今考えればすごいエネルギーをもった生徒だったと感心します。その当時の私は教員経験も浅く、保護者の身勝手さや彼の態度に不信感すら持っていたので、彼のそれらの行動の意味を分かろうとは全く思いませんでした。今思えば彼のことをもっと知ろうとしなかったことを本当に残念に思います。



## <千葉県の養護学校での出会い>

名古屋を去ってしばらく家庭に入り、また千葉県で養護学校に勤務することになりました。11年あまり勤務しましたが、まだ「知的障がい」とひとくくりにされていることが多かったです。

### 2. Aさん 小2

Aさんは今考えれば自閉症スペクトラムと言われるお子さんだったと思います。活動的で、うんざりするくらいのおしゃべり好きな女の子でした。「走って転んだらどうなる?」「友達にぶつかったらどうなる?」と私達を質問ぜめにしては、自分の気に入った答えを大人が返して





れる、そのやりとりを楽しんでいました。ただ、気に入らないことがあると頭をガンガン床に打ち付けたり、手の甲を思い切りかんだりする自傷行為に常にはらはらしていました。ある時頭を床に打ち付けている彼女に「A、床は固いから、そんなに打ち付けてると頭がへこんじゃうよ。豆腐なら柔らかいけど・・・」と何気なく言ったんです。するとその豆腐に食いついて「何で豆腐はいいのか?」「何で豆腐は柔らかいのか?」とその後いつも豆腐問答が続くようになりました。そのお陰か気に入らないことがあって床に頭を打ち付けても、その問答で気持ちを早く切り替えることができるようになったと思います。

### <小学校特殊学級での出会い>

#### 3. Mくん 小6

Mくんは日常生活で言葉は使えましたが、とても幼く不器用なお子さんでした。中学校進学時に「養護学校適」と診断され、保護者も本人もそのことに抵抗はなく、養護学校進学を前提に体験入学をしました。学校の雰囲気はとても良かったらしいのですが、その体験後、彼はなんと「話をしてくれる先生はいっぱいいいた。でもぼくが話ができる友達がいない」とお母さんに言ったそうです。中学校には一緒に過ごした上級生がいたし、小学校では通常学級の子ども達もよく話しかけてくれていたので、それが当たり前だったのでしょう。彼が自分の意思で進路を決め、保護者も彼の気持ちを尊重して中学校へ行くことを選びました。

#### 4. Mさん 小6

自閉症のMさんは一語文は話すものの、感情や考えを言葉で伝えることはできません。その彼女との出会いがその後の障がい児に対する認識を変える大きなきっかけとなりました。Mさんは絵本を読むのが大好きな女の子。その彼女が「筆談」という方法でお母さんと言葉のやりとりをして、気持ちを伝えていると知り、私もできたらやってみたくて協力をお願いしました。幸いMさんがその方法を取得していたので、彼女に教えてもらい、数ヶ月かけて私もMさんと筆談で話ができるようになりました。それ以来今まで知的に遅れが大きく重度と考えていた彼女が、社会の出来事をよく知っており、自分なりに考えていること、またみんなと同じようにできない自分をいつも悔しく思っていること、お母さんを悲しませてすまないと常に思っていることなどを知り、自分が今までどんなに障がい児の気持ちを踏みにじってきたか、申し訳ない気持ちで一杯でした。そんな彼女がある日通常学級に行っていて、突然ベランダでおしっこをしてしまったんです。トイレでの排泄は問題なかったのに、びっくりして、どうしてそんなことをしたのか聞くと「みんなが私に話しかけてくれない。だから寂しかった」と自分の気持ちを教えてくれました。みんなと一緒にいても自分がその場でひとりぼっちという気持ちに耐えきれなかったのでしょう。そんな彼女の気持ちを思うととても切なくなりました。彼女とは小学校を卒業するまでの5年間過ごしましたが、彼女の気持ちが分かることがうれしく、多くのことを教えられました。その反面彼女の思いと現実とのギャップに挟まれて、苦しく感じたことも多々あります。

言語聴覚士として仕事されている皆さんに、私の原稿がどのように受け取られるのでしょうか。



かなしい

かつての教え子達のことを思い出しながら、私は「すごい子ども達に出会ってきたんだなあ」とうれしくなりました。「私たちの気持ちを大切に!」と教えてくれたお子さん達に出会えたことにとても感謝しています。



うれしい

## 〇●〇 第5回訪問リハ・地域リーダー会議に出席して 〇●〇

訪問リハビリ実務者研修会実行委員会 小野 幸男

去る平成26年5月16日・17日、お台場のタイム24ビルにて『第5回訪問リハビリテーション地域リーダー会議』が開催され、県士会代表として訪問リハビリ実務者研修会実行委員会の小野が千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会の各代表と共に参加して参りました。

1日目は、第1部「訪問リハビリ振興委員会及び各協会の活動報告」第2部「地方組織編制について」第3部「地域包括ケア構築に向けた制度改正の動向と課題～退院支援の機能強化に着目して」の各講義が行われました。

第1部の活動報告では、1) 今後は足並みを揃えるためにも各都道府県で振興委員会を設立する2) 訪問看護ステーションからの訪問リハビリはあくまでも『看護業務の一環』という位置づけのため積極的にリハビリが行えない現状がある3) 訪問リハビリからの訪問においても事例によっては制限がかかり不利益が生じている4) こういった問題に対して一丸となって対応していくためにも、各都道府県をブロック化して連携強化を図っていくとの報告がありました。

第3部では国立社会保障・人口問題研究所川越雅弘氏から地域包括ケアに関しての講義がありました。今後超高齢化するものの病院は増床せずに早期退院となり重症度が高い方が地域に増加する。そのうえ、療養病棟の再編が検討されているため、実際にどうしていくのかを考えて行動を起こすのは市町村やリハビリ職の役割となると考えられ、そういった観点から考えても、これからのリハビリは『量』ではなく『質』が益々重要となることが述べられました。

2日目は、今年度の研修の具体的な内容に関しての講義があり、今年度は「地域包括ケアシステムに向けた取り組み」として、①地域活動（病院のセラピストとの連携、介護予防に関するリハビリ対応、地域ケア会議で求められるセラピスト像）②フィジカルアセスメントの2項目を取り入れるように提示がありました。今回、このような要件があげられた経緯としては、在宅に関わる職種においてまだまだ訪問リハビリの認知度が低いことや、病院と在宅の双方からの働き掛けが少なく連携不足になっていること、平成27年度より開催される地域ケア会議に向けて行政やケアマネージャーにリハビリ職が介入する事で自立度が向上する事をアピールしていく必要があることなどが背景にあるとの説明がありました。

そして研修の締めくくりには「地域包括ケアシステムに向けて何ができるか、これから何をすべきか」の議題でグループワークが行われ、それぞれのグループで活発な議論が交わされました。

今回の研修を通して、地域包括ケアが進められている現状では、地域で高リスクの利用者様への対応が求められるようになっていくことやフィジカルアセスメントが重要になることなど、今後改めて訪問リハへの期待が高まっていくことを再確認いたしました。また、一方では訪問リハビリに対しての認知度は依然低く積極的に各市町村での広報や働きかけを行う必要があることを改めて感じました。

3協会では、平成30年度の医療保険、介護保険の同時改定に向け訪問リハビリステーション設立に積極的に行動を起こしており、千葉県においては柏市が総合特区指定され訪問リハビリステーションが稼働するなど確実に前に進んでいます。今回の会議で得たものを実務者研修会実行委員会の活動に活かし、研修がより有意義なものになるように努めてまいりたいと思います。このような貴重な機会をいただき有難うございました。

## ◇ 各委員会・作業部会から ◇

### ◎◎◎生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会◎◎◎

今年度も、一般社団法人 日本言語聴覚士協会、生涯学習プログラム基礎講座・専門講座の千葉県版を実施いたします。基礎講座全ての6講座と千葉県独自の1講座、さらに専門講座1講座と全8講座を2日間で行います。

専門講座は総合南東北病院 神経心理学研究部門の佐藤 睦子先生による「失語症以外の高次能機能障害 Ver.2」を実施いたします。会員の皆様の日々の臨床業務に役に立つ知識と考え企画いたしました。

まだ経験の浅いSTから経験を積まれたベテランSTまで研修が可能なプログラムとなっております。また、認定言語聴覚士の受講資格には生涯学習プログラムの修了証が必要です。

この機会に是非ご参加ください。

日 時 : 平成26年11月16日(日) ・ 11月23日(日)

会 場 : 千葉市民会館

詳しくは同封の案内状をご覧の上、当会ホームページから(申込み開始:9月1日)お申込みください。多くの皆様の参加をお待ちしています。

(斉藤 公人)

### ◎◎◎訪問リハビリ実務者研修会実行委員会◎◎◎

平成26年度 生活期リハビリテーション合同研修会  
(第5回 千葉県訪問リハビリテーション実務者研修会) 開催のご案内

今年度は、今後の医療・介護両領域に向けた「地域包括ケア」に関係する内容を取り上げています。また、昨年同様訪問リハビリを中心に必要な基本的知識を身に付けるための【ベーシックコース】、そして、これまでに「訪問リハビリ実務者研修会」を履修したみなさま向けの【アドバンストコース】の2階層で構成しています。

日 時 : 平成26年11月1日(土)～2日(日) 両日ともに受付9:00 開講9:30

会 場 : 千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス 千葉市美浜区若葉 2-10-1

交 通 : 幕張駅(総武線) 海浜幕張駅(京葉線) 京成幕張駅(京成千葉線) 各駅から15分  
会場に駐車場はありません。公共機関をご利用下さい。

内 容 : プログラムは決定次第ご案内致します。

募集人員 : ベーシックコース:100名 アドバンストコース:50名(当実務者研修会履修者)  
\*両コース共に定員に達し次第締め切ります。

受講対象 : 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、他職種、学生

受講費 : 各県士会会員6,000円 非会員10,000円 他職種・学生3,000円  
懇親会費4,000円【11月1日(土)夜 時間・会場は当日お知らせ致します】  
\* 受講者の都合によるご入金後の返金はありません。ご了承下さい。

＊ 一日のみの参加でも受講料は二日受講と同様です。

申し込み : E-mail にて下記必要事項①～⑩を必ずご記入の上お申し込み下さい。  
あわせてアンケートのご記入もご協力下さい。

E-mail add : **chiba\_houmon@yahoo.co.jp**

必要事項

- ①氏名：フリガナを入れ、誤字のないようにお願い致します。 ②受講希望コース ③生年月日  
④職種 ⑤各士会の会員番号：全国協会の会員番号 ⑥所属 ⑦所属の連絡先（TEL、FAX）  
⑧緊急連絡先（できれば携帯番号） ⑨懇親会参加の有無  
⑩受講者名簿掲載（各士会 HP）の有無：全国協会会員のみ

（名前・職場名のどちらも希望、名前のみ希望）

- ⑪アンケート：生活期リハビリテーションの疑問や悩み、不安や不満など

＊受講費の入金先は申し込みメールに返信致します。

携帯電話やパソコンをヤフーフリーメールでの受信可能な状態に設定して下さい。

＊申込みから 1 週間経っても返信が無い場合は

千葉県理学療法士会事務局 FAX 043 - 242 - 6203 にご連絡下さい

申込締切 : 平成**26年10月10日（金）必着** ＊入金が確認され次第参加受付完了となります。  
ます。

備 考 :

- ・ 全国協会会員の方で、2日間受講された方のみ受講証が発行されます。ご了承下さい。  
休会中、又はご都合により協会費を未収の方には発行を致しかねます。
- ・ 受講証が発行された方には各協会の学術単位が付与されます。
- ・ 希望者は受講者名簿が各県士会ホームページで公開されます。（全国協会会員のみ）  
なお、研修会受講時の在籍職場名を掲載致します。異動後の職場名変更は致しかねます。
- ※ 来年度の訪問リハビリテーション管理者養成研修会（旧管理者研修会）STEP 1 に受講予定の方  
は、本研修会（実務者研修会）の受講が必須となります。ご注意ください。

問合せ : 申し込み先同様の E-mail にて受け付け致します。

（小野 幸男、勝又 綾子）

## ◎◎◎リハビリテーション公開講座実行委員会◎◎◎

### 第7回リハビリテーション公開講座報告

平成26年4月25日(金)、船橋市民文化創造館「きららホール」において、千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会、千葉県言語聴覚士会、千葉県リハ医学懇話会の共催で「第7回リハビリテーション公開講座」を開催しました。今回は本会が幹事団体として、企画・運営を担いました。参加者126名、実行委員、当日スタッフを加え合計155名、夜の開催にも関わらず、過去最多の参加者が集いました。なかでも一般の方に多く参加頂き、リハビリについての関心と要望の高さを感じました。会員の皆様にはお伝えしましたように、2月8日（土）午後の開催予定でしたが、雪のために急遽開催を取りやめ、延期した経緯があります。

今年度は、『みんなで考える脳卒中・在宅編 ～楽しく介護とリハビリのポイント～』というメインテーマのもと、脳卒中の再発予防と家での暮らしを支える介助やリハビリのポイントを紹介しました。東京湾岸リハビリテーション病院医師である松浦大輔先生には、「脳卒中の再発を予防しすこやかに暮らすために」の演題で、最新の医学情報を基に、日常生活で出来ることも交えて、基調講演をして頂きました。



本会からは、船橋市立リハビリテーション病院の高野麻美先生が、「嚥下のしくみと肺炎予防 ～安全に食べるポイント～」のテーマで講演を行いました。内容は、誤嚥性肺炎の予防についてで、嚥下時の動画などを使用し、多くの臨床経験に裏付けされたものでした。参加者からは、家庭での実践に繋がる工夫や、安全に食べることへの意識づけとして役立ったという感想が挙げられました。また、肺炎が死因の第3位になっており、高齢になるほど配慮を要するという統計データは、今後も摂食・嚥下障害へのニーズが増えていくことを示していると思われます。今回の第7回開催において、当事者会からの講演を初めて企画しました。千葉県失語症友の会協議会会長である横田清さんが、「身体と言葉の障害を乗り越えて」という演題で、発症当時の“奈落の底”の時期から数年して、STに進められて参加した「失語症友の会」との出会いや、少しずつ自分で生活を再建していく過程を、一言ひとこと語るように講演されました。参加者からのアンケートには「失語症の方の話を聞き、努力の大切さを知りました」という感想が寄せられ、他士会の実行委員からも琴線に触れたという声が聞かれるなど、当事者を含めた企画が期待されている印象を受けました。

情報保障としての“要約筆記”については、回数を重ねるにつれて他士会からの理解も得られ、一般の参加者からは「メモをとるのに役立った」などの感想が寄せられる等、肯定的に受け入れられていることを実感しました。

今後の課題としては、行事開催における緊急時の対応が挙げられました。2月の雪の日には、他士会も含めてホームページに、開催中止の旨の掲載を当日早朝に行ったものの、県民に対しての周知方法について今後検討していく必要があることが確認されました。

当日スタッフとしてボランティア協力を頂きました会員の皆様に、お礼申し上げます。今後とも企画運営に関してのご意見・ご感想等、よろしくお願いいたします。

#### 第8回リハビリテーション公開講座のご案内

日 時：平成26年11月22日（土）13時00分～16時00分

会 場：勝田台文化センター（八千代市、京成本線勝田台駅南口から徒歩5分）

内 容：医師による基調講演と、PT・OT・ST士会によるリハビリ体験コーナー

本会からは、『あなたもできる摂食嚥下リハビリ・実践編』をテーマに、安全に食べるための工夫などを、実技をとおして体験していただく予定です。

詳細は、今後ホームページ等でお知らせします。

（岩本 明子、神作 暁美、鈴木 三樹子、倉田 大地）

## ◇ 事務局から ◇

### 年会費納入のお願い

\*当会の年会費は前納制となっております。

正会員	3500円	準会員	3000円
賛助会員	1口5000円（個人1口以上、団体2口以上でお願いします）		

\*お支払期限は以下のとおりです。

平成27年度分：平成27年3月31日

平成26年度分：平成26年3月31日（未納者181名）

平成25年度分：平成25年3月31日（未納者80名）

### 未納分について

\*本年度は未納ゼロをめざします。平成25年度分・平成26年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、2年分を合計した金額にてお早めにお支払いください。

本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。（例：正会員の場合：3500円×2＝7000円）

#### ◇◇お支払い方法◇◇

##### 1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

（記号番号）00120-6-39932

（加入者名）一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

（銀行名）ゆうちょ銀行（金融機関コード）9900（店番）019

（店名）〇一九（ゼロイチキュー店）

（預金種目）当座（口座番号）0039932

（受取人名）イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

##### 2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落とし

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

尚、今お手続きをされた場合、平成27年3月1日より自動引落としが開始されます。

### 自動引落日の変更について

\*ゆうちょ銀行口座の自動引落としをご利用の方は、次回（平成27年3月）から引落日が変わります。

（旧）3月15日 → （新）3月1日

《年会費に関するお問合せ先》

船橋二和病院 リハビリテーション科 鈴木 直哉 047-448-7111（代）

## 1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

## 2. 迷子が増えています ～ 変更届についてのお願い ～

本会からの書類の多くはメール便にて発送していますが、最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付を試行中です。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力をお願いいたします。

## 3. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員368名・準会員23名・賛助会員：7団体

（平成26年7月13日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

小田 柿 誠二（東京湾岸リハビリテーション病院）	佐藤 陽子（千葉市療育センター）
佐藤 直美（千葉みなとリハビリテーション病院）	池田 有紀（千葉労災病院）
加藤 夏海（八千代医療センター）	中村 奈津子（北総白井病院）
唐川 英士（市川総合病院）	本多 久美子（袖ヶ浦さつき台病院）
奈良 諭（所属なし）	中村 真美子（千葉県循環器病センター）
鈴木 花子（袖ヶ浦さつき台病院）	山内 志保（千葉みなとリハビリテーション病院）
深見 藍（らいおんハートクリニック行徳駅前）	福田 ゆき乃（千葉市療育センター）
鈴木 美華（千葉市療育センター）	茂野 真（船橋市立リハビリテーション病院）
小松 夏希（船橋市立リハビリテーション病院）	關口 友子（船橋市立リハビリテーション病院）
大沼 寿美江（我孫子聖仁会病院）	金屋 麻衣（総合病院国保旭中央病院）
采澤 憲幸（大野中央病院）	坂本 美咲（袖ヶ浦さつき台病院）
加瀬 由美（千葉みなとリハビリテーション病院）	本吉 亮恵（亀田リハビリテーション病院）
水野 宗明（スマートキッズプラス本八幡）	高江洲 政秀（松戸リハビリテーション病院）
秋野 弥生（総合医療センター成田病院）	野口 明日可（鎌ヶ谷総合病院）

以上

## ◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

### ◆ 平成26年度 理事会

＜第1回＞

日時：2014年4月27日（日）13時00分～16時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、宮下、渡邊（以上理事8名）、山本（監事）、原田・井上（書記）

1. 協議事項：・各部、各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・総会について ・平成26年度

千葉市地域リハビリテーション連絡協議会委員推薦について ・認知教材アプリ集について ・高次脳機能障害委員会研修会について ・認知症専門職研修について ・財務業務について ・リハビリテーション公開講座について ・メルマガ配信業者の移行について ・学術局第1回研修について ・学術局第2回研修会案内状(仮)について ・介護保険委員について

2. 報告事項: ・平成26年度生活期リハビリテーション合同研修会報告 ・学術局研修会報告集郵送料金不足の顛末について ・平成25年度第2回千葉県地域リハビリテーション協議会について ・世界作業療法士連盟 ウェルカムパーティについて ・船橋在宅医療ひまわりネットワークの研修会について

#### 《第2回》

日時: 2014年5月18日(日) 10時00分～12時00分 場所: 千葉大学医学部附属病院第3講堂

出席者: 吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、宮下、渡邊(以上理事8名)、宇野、山本(以上監事2名)、宮阪(書記)

1. 協議事項: ・各部、各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・総会について ・貸借対照表の電子公告について ・千葉県介護保険関係団体協議会 ・学術局第2回研修会案内状およびJAS申請について ・リハビリ公開講座会計報告、後援団体報告書について

2. 報告事項: ・公益法人ワーキンググループについての報告

#### 《第3回》

日時: 2014年6月15日(日) 13時00分～16時00分 場所: 黒砂公民館 会議室

出席者: 吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、宮下、渡邊(以上理事8名)、山本(監事)、鈴木(書記)

1. 協議事項: ・各部、各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・ニュース45号について ・メールマガジンについて ・部員名簿について ・千葉県介護保険関係団体協議会について ・第5回生活期合同リハビリテーション研修会について ・第5期千葉県障害者計画策定委員会への意見について ・千葉県立保健医療大学からの研究協力依頼について ・HPイベント情報掲載依頼について ・認知症専門職実行委員会について ・諸費用について

2. 報告事項: ・第5回訪問リハビリテーション地域リーダー会議報告 ・第1回船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会報告 ・WFOT ウェルカムパーティー参加報告 ・千葉県文化の日千葉県功労者表彰の被表彰者推薦について ・千葉県立千葉聾学校より派遣依頼について

### ◆ 平成26年度 学術局

《第1回》日時: 2014年5月18日(日) 17時30分～18時00分 場所: 千葉大学医学部附属病院第3講堂

出席者: 荒木、柄澤、神作、木村佐、木村知、酒井、佐藤 欠席者: 竹中

・第1回研修会反省 ・平成26年度第2回研修会案内状確認 ・その他

### ◆ 平成26年度 職能部

《第1回》日時: 2014年5月18日(日) 17時30分～20時00分 場所: 千葉大学医学部附属病院 第3講堂

出席者: 鈴木、常田、渡邊

・今年度の活動報告及び活動計画の確認 ・今後の予定

### ◆ 平成25年度 地域連携部 千葉市地域リハビリテーション広域支援センター会議

《第2回》日時: 2014年3月10日(月) 出席者: 勝又

### ◆ 平成25年度 地域連携部 千葉県地域リハビリテーション協議会

《第2回》日時: 2014年3月25日(火) 出席者: 古川

### ◆ 平成26年度 渉外部 船橋在宅医療ひまわりネットワーク

《第1回役員会》日時: 2014年5月9日(金) 出席者: 山本

《第1回委員会》日時: 2014年6月20日(金) 出席者: 山本



### ◆ 平成26年度 渉外部 NPO法人千葉県介護支援専門員協議会

《第1回代議員会》日時：2014年5月18日（日）出席者：吉田

### ◆ 平成26年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修実行委員会

《第1回》日時：2014年4月15日（火）出席者：小野、勝又、吉田

《第2回》日時：2014年5月20日（火）出席者：小野、勝又、吉田

《第3回》日時：2014年6月10日（火）出席者：勝又

### ◆ 平成26年度 渉外部 認知症専門職研修実行委員会

《第1回》日時：2014年5月23日（金）出席者：平山

《第2回》日時：2014年6月19日（木）出席者：鈴木、治田

### ◆ 平成26年度 小児言語障害委員会

《第1回》日時：2014年6月8日（日）10:00～12:00 場所：千葉リハビリテーションセンター研修室

出席者：藤田、金子、戸田山、廣瀬、渡邊

今年度の活動計画の確認、報告事項、今後の予定

### ◆ 平成25年度 第7回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第9回》日時：2014年5月21日（水）19時00分～20時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、鈴木、倉田、吉田 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会2名

・第7回リハ公開講座の反省 ・会計報告 ・後援団体報告書

### ◆ 平成26年度 第8回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第1回》日時：2014年5月21日（水）20時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、鈴木、倉田、吉田 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会2名

・内容 ・テーマ ・会場確認 ・広報の方法 ・今後の予定

《第2回》日時：2014年6月17日（火）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、倉田 千葉県理学療法士会5名 千葉県作業療法士会2名

・後援依頼 ・内容 ・テーマ ・当日スケジュール ・会場レイアウト ・準備機材 ・ボランティア

### ◆ 平成26年度 介護保険委員会

《第1回》日時：2014年6月15日（日）10時00分～11時20分 場所：サイゼリヤ船橋イトーヨーカドー店

出席者：木村知、木村佐、相川、松本、山崎 欠席者：小野

今年度の活動・役割の確認、アンケート調査実施方法について等

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

## リオネット補聴器

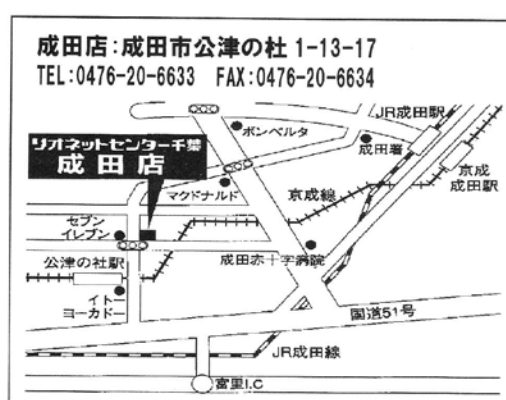
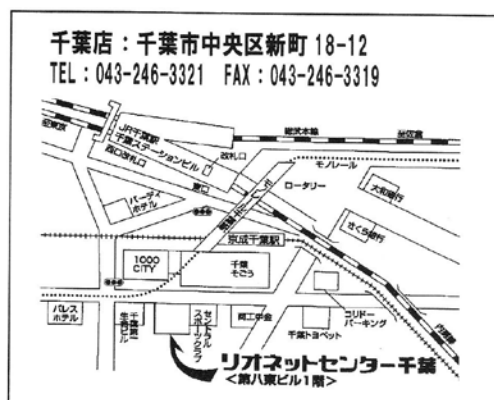
補聴器のご相談は安心できる

# 認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。

## 認定補聴器専門店

# リオネットセンター 千葉



# Hello

在宅  
通信販売

かむことや飲み込むことが、困難な方や  
たんばく質などを制限されている方へ  
ご一報ください。

(株)富士食品 千葉県君津市坂田272

TEL：0439-52-2421

FAX：0439-53-0758

新 発 売

とろみ調整食品

# トロメリン® V

“ダマ”になりにくく使いやすい!

様々な液状食品に同じ使用量でほぼ同等のとろみがつきます。



**Point** 溶けやすく、ダマになりにくいので簡単にとろみをつけられます。

**Point** 少量で十分なとろみがつき、すみやかに安定します。

**Point** 様々な液状食品に、同じ使用量でほぼ同等のとろみがつきます。

**Point** 透明感のあるベタつきの少ないとろみがつき、食品の味を変えません。

●賞味期間／製造後2年間



販売者  
株式会社 三和化学研究所  
本社/名古屋市東区東外堀町35番地〒461-8631  
TEL(052)951-8130 FAX(052)950-1861  
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

# 構音(発音)指導のための イラスト集

企画・監修：加藤正子 竹下圭子

B5判5冊セット 7,776円

- 特長1 細かい構音指導に対応！語頭・語末・語中の3分類に単語を配置！
- 特長2 子どもに合わせた絵の選択や提示順番を自由に変更可能！
- 特長3 持ち運びに便利！音別に5冊に分冊！

キャリアーバのための構音(発音)絵カード 企画・監修：加藤正子 竹下圭子  
絵カード(A6サイズ) 523枚/CD-ROM/絵カードリスト/手引書/保管ケース 24,840円

**New** 「キャリアーバのための構音(発音)絵カード」がイラスト集になりました！

子どもがより短時間で多くの単語を練習できるように、絵カードのイラストを活用して、次々に呼称してもらえイラスト集です。



**New**

## 認知世界の崩壊と再形成

—脳損傷による視覚の障害を中心に—

A5判 4,860円

著：鳥居修晃(東京大学名誉教授) 能智正博(東京大学大学院教育学研究科教授)  
望月登志子(日本女子大学名誉教授) 山田麗子(元 帝京平成大学教授)

### 脳損傷によって失われた視覚機能の軽減と改善!!

国立身体障害者リハビリテーションセンターのスタッフと東京大学教養学部心理学研究室やその関係者が行ってきた心理学的臨床研究から、脳損傷による「高次視覚機能障害」に的を絞り、その軽減と改善を目標とした一連の協同研究の成果について詳細に著しています。

言語訓練用絵カード **ActCard** (ActVoice®対応) (アクトカード)

## **New** 第4巻 名詞絵カード

75mm×125mmサイズ 絵カード300種類 19,440円

失語症の言語訓練を目的とした絵カードです。他の名詞絵カード(1・2巻)より、やや難しい語彙で構成されています。



- 第1巻・2巻 名詞絵カード
- 第3巻 動詞絵カード ..... 各19,440円
- 文字版第1巻 (アクトカード第1巻に対応) ..... 15,120円



※ デザインは変更になることがあります。

## ActVoice® (アクトボイス) 改良版

10月発売予定

現行のActVoiceを全面的に見直し、機能的にシンプルにしました。操作性の向上と低価格化を実現した改良版を開発中です。詳しくはホームページをご覧ください。

多機能言語訓練装置 **ActVoice** (ActCard®対応) (アクトボイス)

好評発売中!!

アクトカードを利用した多機能な言語訓練装置です。カードをセットし、ヒントボタン、答えボタンを押すと各音声は再生されます。 41,040円



テレビで  
紹介  
されました!

もの忘れが気になる方へ **新記憶サポート帳** 著：安田 清 A4変形版 1,296円  
毎日書くことで、困っていた予定のやり残しや、約束を忘れることが減ります。  
「物忘れ外来」のリハビリを担当する言語聴覚士が、長年の臨床から開発しました。

3か月分  
記入可能



株式会社 エスコアール

<http://escor.co.jp>

● 上記の商品はホームページから全品送料無料でお求めいただけます。● 価格は全て消費税込みです。

TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3



# 「健康な毎日」は **口腔ケア** から。

お口の中の「3つのケア」 **保湿** **清掃** **リハビリ** をトータルサポート



医療現場から生まれた口腔ケアシリーズ

**保湿**

**清掃**

**リハビリ**



## 口腔ケア マウスピュア シリーズ 口腔ケア製品ラインナップ



口腔ケアジェル



口腔ケアスポンジ



吸引歯ブラシ／吸引スポンジ



フレッシュメイトK



口腔ケア綿棒



口腔ケアガーゼ

**川本産業株式会社**

※ 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

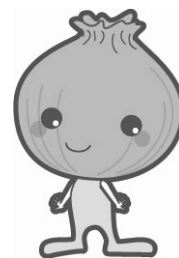
●お客様相談窓口 ☎06-6943-8956 (10:00～17:00 月～金ただし祝祭日を除く)  
●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は / マーケティング本部 ☎06-6943-8941  
<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>

## 【重要】メルマガ配信業者の変更についてのお知らせ

当会のメルマガを利用されている会員の方に、重要なお知らせです。

メールマガジン配信当初より Yahoo!グループを利用しておりましたが、サービスの終了に伴い、配信先を MLIST へ変更いたしました。

配信先アドレス : [chibast@mlist.ne.jp](mailto:chibast@mlist.ne.jp)



6月5日に『千葉県言語聴覚士会メールマガジンNo. 181』を配信いたしましたが、現在、数名の方に配信できていない状況です。受信メールをご確認の上、メールマガジンNo. 181を受信できていない方は、お手数をおかけいたしますが、当会HPからメールアドレスの登録をお願いいたします。

※なお、「当会のメールマガジンは初めて」という新規の方も登録が可能です。



聴覚障害委員会では、  
10月に補聴器についての研修会を行います。  
詳細は9月に HP に掲載しますので、ぜひご参加  
くださ〜い！！



高次脳機能障害委員会では、  
小嶋知幸先生による失語症の特別講座を企画し  
ています！  
10月25日(土)、海浜幕張(予定)  
詳しくはHPをご覧ください。8月掲載です。



発行所: 一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人: 吉田浩滋

編集人: 編集部 古川大輔

事務局: 〒263-0042 千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail [chibakenshikai@zp.moo.jp](mailto:chibakenshikai@zp.moo.jp)

ホームページ: <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード: affordance

印刷: 社会就労センター はばたき職業センター